

句集

小春の山河

小山徳夫

情景俳句に俳諧味と
新しさを加えた句風
はさらに磨きがかけ
られて、第二句集の
飛躍と充実を明証し
ている。

小澤克己

PDF制作

俳誌のsalon

職退きし吾に小春の山河かな

雪籠りにて書く山野徘徊記

立読み
に冬帽
ひとつ
加はりぬ

枯木
星心に
ささる
棘いくつ

京都二句

洛東のしぐれしあとの夕灯

湿^{しつ}を打ち祇園小路の冬ぬくし

鳩のごと潜かづき涙を隠したし

仕上がりし左義長の曳く夕日影

握手固し互ひに白き息吐いて

雪積んで朝の胸乳の青さかな

梅
ほ
ろ
と
こ
ぼ
れ
青^{せい}
黛^{たい}
ふ
と
翳
る

唐
松
の
芽
吹
き
を
語
り
遠
き
瞳
に

石組みのゆるみしところ春の蝶

白木蓮の千花一花の遅れなし

謙
信
と
信
玄
の
像
鳥
雲
に

狭
間
よ
り
海
へ
と
展
く
帰
雁
空

妖精が操つてゐるしやぼん玉

未確認物体飛来春一番

遥
曳の雲
となり
ゆく
花
堤

暖
か
き
顔
の
揃
ひ
し
芝
生
か
な

ことごとく癒ゆる思ひの春の雨

空色の風船が先づ放たれし

人集ひくる啓蟄の百草園

劍豪のごと花を浴び花を踏み

落石の筈のこだま朴芽立つ

春昼の動物園の雀かな

劍学ぶことなく過ぎて柏餅

新しき駅薫風の佐久平

ご
つ
ご
つ
の
ゴ
ッ
ホ
の
空
や
麦
の
秋

瀬
明
り
の
方
へ
散
り
ゆ
く
竹
一
葉

早春の裾野をかすめ「あさま号」

耕して父に会ひたくなりけり

春の野を来てよろづ屋のメロンパン

春月へ無人の馬車の発ちゆけり

茅花野の記憶の襞の一少女

会ひに来る春夕焼に頬染めて

神
殿
の
一
燈
昏
し
花
の
冷

黒
衣
へ
と
豊
か
に
花
の
し
だ
れ
け
り

街燈の陰より老いし風船売

春の燈を点せば消えてをりし女

貝殻に秘密の日付冬の雷

鷹の眼となつて海図を拡げゐる

彫り終へて鑿をことりと雪の夜

終の地と決めし山河の初明り

小山徳夫 (こやま・とくお)

昭和10年10月 長野県小海町生まれ
平成4年3月 小澤克己に師事
平成4年5月 「遠嶺」創刊と同時に入会
平成7年1月 「遠嶺」同人
平成7年5月 「遠嶺」副編集長
平成7年10月 句集『高嶺空』上梓
平成9年10月 「遠嶺」幹事長
平成14年10月 第六回「遠嶺賞」受賞
現在 「遠嶺」幹事長、同人会副会長
俳人協会会員

現住所 〒354-0034 埼玉県富士見市上沢3-8-1
電 話 049-251-3321



秀明俳句叢書

句集 小春の山河 こはるのさんが

発行 平成十六年一月三十日

著者 小山徳夫 @T.Koyama

発行人 松尾正光

発行所 株式会社 東京四季出版

〒160-0001 東京都新宿区片町一―四〇二

電話 〇三(三三五八)五八六〇

振替 〇〇一九〇―三一九三八三五

印刷 西武印刷株式会社

定価 本体二四七六円十税

ISBN4-8129-0307-6

落丁・乱丁はお取替いたします